

Table 2. Variation of the head widths of larvae.

Instar	First	Second	Third	Fourth
Head width	7-8/20 mm	8.3-9.5/20 mm	11-12.5/20 mm	13-15/20 mm
Number of individuals measured	14	13	8	10

Table 3. Durations of prepupa and pupa under room temperature condition (24-33°C) in summer, 1962.

No.	Spinning cocoon	Prepupa	Pupa	Emergence
1	2-VIII		8-VIII	24-VIII
2	4-VIII		10-VIII	27-VIII
3	6-VIII	8-VIII	12-VIII	29-VIII
4	11-VIII	13-VIII	17-VIII	3-IX
5	12-VIII	15-VIII	19-VIII	5-IX
6	14-VIII	17-VIII	21-VIII	7-IX
7	17-VIII	20-VIII	24-VIII	11-IX

の色である。

最初の孵化は、19-VII-'62 に始まつた。孵化した日に、クロオオアリの職アリが、幼虫に給餌するのが見られ、幼虫は发育を開始した。個体識別したわけではないが、最初に孵化し、最も早く成長した1匹の幼虫について、頭幅測定や形態の変化によつて齢数の調査をしたところ、4 齢を数え得た。第1表がその結果である。その後も時々幼虫の頭幅と形態とを併せて調査し、各齢の頭幅を測定した(第2表)。

### 幼虫の生態

体毛の形や毛の多少が幼虫の齢数によつてやや異なる。多数の幼虫について個体識別して観察したわけではないので、環境の変化等により、毛の状態にも変化があるかどうか、よくわからないが、体毛の状態は、幼虫の生態とも関係があり、次のような傾向を示した。

1 齢幼虫は、体背面に粗に長毛を持つが、他の部分には殆んど毛はなく、各齢中最も毛は少ない(写真4)。体表の付着力で1 齢幼虫同志、或は卵塊に付着する。職アリも特に卵と1 齢幼虫を分離させない。

2 齢、3 齢の幼虫は、先端部が小さく曲つて鉤或は輪のようなものを形づくつている比較的長い毛を粗生する。3 齢幼虫は、鉤状毛の他に直立短毛が多い。全体に2 齢幼虫より体毛は多い。この鉤状毛のために、2, 3 齢の幼虫は、互にからみ合つて一塊となり、卵には付着しなくなる。又、4 齢幼虫や繭にもからみついて付着する。

4 齢幼虫では、鉤状毛は腹端部にのこるだけで、大きく彎曲した長毛を粗生し、又、直立短毛はかなり密生して、各齢中最も体毛は多い。鉤状毛が減つて、からみ合う能力は悪くなり、体重増加もあつて、4 齢幼虫は、床の上に平面状に置かれた。4 齢幼虫の大顎は褐色で、各齢中最も濃色であり、大顎の付根に黒色の部分が現われる。各齢の幼虫が、職アリの反吐によつて給餌されるが、4 齢になると職アリから小肉塊を与えられて、頭部で抱え込むように